

第4回糸満市総合教育会議 議事録

日 時 平成28年9月29日(木)午後5時30～午後6時30分

開催場所 糸満市役所5-d会議室

出席委員

上原昭市長、久保田暁 教育委員、稲嶺初枝 教育委員、吉川朝昭 教育委員、神村逸子 教育委員、
安谷屋幸勇教育長

事務局及び関係部局

(市長部局) 上原仁企画開発部長、国吉丘政策推進課長、伊敷茂雄経営管理係長
山城安子福祉部長、金城満児童家庭課長、宇都宮智計画係長
(教育委員会) 神谷良昌総務部長、金城毅指導部長、福元信美総務課長、新垣研総務係長

協議事項

(1) 糸満市教育大綱(案)について

[司会]

それでは、定刻になりましたので、これより、第4回糸満市総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、企画開発部長の上原と申します。よろしく申し上げます。

開会にあたり、7月に就任いたしました市長の上原昭よりごあいさつを申し上げます。

[市長]

みなさん、こんばんは。7月に市長就任いたしました上原でございます。市長部局と教育委員会との連携を取るために、今後具体的にどうするか、事業を進めながら整理していきたいと思っております。その辺も含めまして今後よろしくお願い致します。

[司会]

協議に入る前に、教育長も変わりましたので、安谷屋教育長、ごあいさつをお願いします。

[教育長]

みなさん、こんばんわ。安谷屋と申します。教育委員会としても市長部局との協力なしでは、できない事業などもございますので、市長には協力の程よろしくお願い致します。

[司会]

安谷屋教育長、ありがとうございました。

それでは、協議に移らせていただきます。

今回の協議内容は、糸満市立幼稚園・保育所の認定こども園移行等に関する方針案についてでございます。この件につきまして、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

それでは、糸満市立幼稚園・保育所の認定こども園移行等に関する方針案につきまして、ご説明させていただきます。

資料の方ですが、次第の付きの冊子と別添資料が2つあります。まず、次第付きの冊子ですが、ページをめくりますと資料1があります。

この資料1が、今回の協議事項にあたります「糸満市立幼稚園・保育所の認定こども園移行等に関する方針案」となります。本案は、地域説明会でも利用した資料をそのまま表題だけ変更して記載したものです。ですので地域説明会でも同様の説明を福祉部と教育委員会が行っています。

今回は事務局である私の方で概要を説明させていただきます。

まず、項目1についてですが、本市の現状としては、3歳児からの幼児教育の提供、保育所等利用待機児童の解消、貧困対策、老朽化した公立施設の整備、保育教諭等の人材確保、小学校への円滑な就学、小規模保育事業所卒園児の連携先確保等の長年の課題があり、その解決策として、市立幼稚園と保育所を整理統合し、より質の高い認定こども園への移行を計画することにしました。

その際、公立の保育所と幼稚園を整理統合の上、直営を6施設に集約し、幼保連携型認定こども園の標準モデルとして、就学前教育・保育環境の充実を図る予定です。

また、大綱化された幼保連携型教育・保育要領を創意工夫し、特色ある保育を提供し利用者の選択に応じていくことも重要であることから、施設、設備の整備や民間活力を活用し、平成30年度までにこれらの諸課題を解決できるよう努めることを記載しています。

資料2ですが、別添資料1と2も連動しています。これは地域説明会に関する資料です。6カ所で行いまして、合計278名の参加者がいました。また、パブリックコメントについては、平成28年9月2日から9月23日までの21日間に応募をかけたところ、文書が2件、メールが0件でございました。

説明は以上です。そのほか補足する点がありましたら福祉部長お願いします。

[司会]

ありがとうございます。

資料及び補足説明は以上となりますが、その他教育委員会事務局から説明がありますでしょうか。

[教育委員会]

さきほど行われました教育委員会議でも認定こども園について協議いたしました。会議の中でも幼稚園を認定こども園に進めていくということで意見がまとまりました。ただ、教育委員会の中でも市長部局に対していくつか要望したいことがあるということでしたので、指導部長から説明をお願い致します。

[指導部長]

※「糸満市立幼稚園・保育所の認定こども園移行等に関する要望」を全文読上げ※

[司会]

ありがとうございます。

これまでの説明につきまして、皆様何かご意見等ありますでしょうか。

[久保田委員]

幼児教育については、糸満市が全県に先駆けて先進的に取り組むことは共感できます。認定こども園についてもこれだけ多岐に渡り、取組みを先に進めるということは、新たな希望が湧いてきます。

喜屋武こども園と真壁子ども園は先にスタートするということですが、保育と教育が一体的になるということで将来的にどうなるのか、私たちは教育委員でもありますので幼児教育のあり方と保育をどう協力してやっていくのか、そのためには先生たちは研修を積んでいかないといけないので不安がいっぱいだと思います。それを解消していくのが、今回の教育委員会からの要望であり、これはとても大事なことだと考えています。

また、各地域の説明会ですが、終了後に地域から「職員体制で大丈夫なんですか」と質問がありました。

とても不安なのだと思います。今までの幼稚園であれば、子どもたちは全員入れました。ところが認定こども園で定員を定めた場合、外れたらどうなるのかという保護者の不安がありますので、そこはしっかりと解決してほしいです。そういうことを踏まえて、幼児教育や保育のあり方がしっかりと行っていければよいなと思います。

そのほか、行政、市役所の中にしっかりと統括できる場所が必要ではないかと思います。児童家庭課、教育委員会がお互いにやりとりだけを行っているだけであれば将来的に厳しいのではないのでしょうか。

そこはひとつの頂点を作り、それぞれをつなげ、教育のあり方、保育のあり方、公立、私立などをしっかりとまとめてほしいと思います。そういう意味で、窓口の一元化は非常に大切だと思います。

[市長]

福祉部から何か意見はありますか。

[福祉部]

定員の件ですが、事前にニーズ調査を行っています。その中で、1号認定（3歳から5歳の幼稚園児に該当）と2号認定（3歳から5歳の保育園児に該当）ですが、西崎と潮平が不足しているため、その5歳児をどうするかはこれからの課題と考えています。しかし、この調査は中学校区で行っているため、調整して隣の地区のこども園で受け入れてもらうという形になるかと思っています。西崎も同様で、光洋幼稚園と西崎幼稚園のクラスを増やしていくかということを考えていきたいと思っています。

また、喜屋武と真壁に関しては、先生たちの研修が重要な課題となっています。研修期間がなく、すでにスタートしています。今後は研修機関を作っていくことは必要だと思います。

[久保田委員]

糸満市の場合、公立が6園残るわけですね。残り4園のうち1園が廃止になります。そのなかで民間と公立の職員の差や国から補助などはどうなるのですか。

[福祉部長]

今は、民間の方が補助金は結構ありますので、給与的な部分は公立（臨時職員）よりも高くなってきていると思います。

また、公立の職員も6園に統合することにより、職員を再配置して、正職員率を高めていくという考えです。

[久保田委員]

国としては、民間に重点を置こうと考えているわけですね。

[福祉部長]

はい。

[久保田委員]

ただ、私たち教育の立場から考えると、保育、幼稚園、小学校という中でつなぎを非常に大切にしたい。子どもたちの成長過程はバラバラに分けられているのではないので、つなぎを大切するためにどうするのか。民間のみなさんがどう考えているのか。市はどう考えているのか。そのあたりきちっと連携を取って埋めてほしいです。

[福祉部長]

認定こども園になりますと小学校との連携は必須となります。また、これまでは5歳児だけが幼稚園教

育の対象でしたが、これからは3歳から5歳までが対象となりますので、もっと小学校との連携が必要だと思います。

[久保田委員]

後は認定こども園のあり方が問われてくるということですか。

[福祉部長]

はい。教育という側面から見ると3歳から教育を受けることができることは、最大のメリットだと思います。

[上原市長]

教員の研修については、教育委員会がしっかりとやるということですか。何か具体的な計画や準備するものなどはありますか。

[指導部長]

研修を行うために人の確保も必要となりますので、具体的なことはこれからとなります。ただ、今でも民間も含めて幼稚園と小学校の共同研修は行っています。こちらも含め、スタッフを固めながら、幼児教育の方も進めていけたら、もっと質の高い教育を行うことができると思います。

将来のことを考えると幼児教育に投資した方が良い訳ですから、先生を教育する人にも必要だと思います。

[上原市長]

認定こども園の研修というのは、公立も私立も含めて国の制度ですか。

[福祉部長]

国が認定こども園の教育要領を定めるよう示しています。沖縄県では、まだ認定こども園の研修のあり方ができていません。

[上原市長]

研修事業に対する、国の支援などはありますか。

[指導部長]

沖縄県教育委員会にはまだありません。

話は変わりますが、秋田県では、幼児教育を指導するためのスタッフが10名ほどいて各教育事務所に4名程度配置していると聞いています。また、石川県では、学力の高いところは幼児教育を研修するスタッフが多いと聞いています。

沖縄県教育委員会には、スタッフが1名だけで、各教育事務所は0名です。その中で糸満市がこれから認定こども園の研修を実施するのですが、まずは自分たちでやらないといけない状況です。県には引き続き要望を出していきます。

[久保田委員]

今、教育委員会内に幼稚園の支援事業がいくつかあり、先生方も配置され、指導体制もできているかと思います。これと保育関連でもう少し人員を増やしてほしい。そうすれば糸満市を沖縄県一の幼児教育のまちとしていけるのではないかと思います。

幼児教育を重視し、幼児のころに脳をうまく使えば、糸満市の学力はもっと良くなると思います。

あと、職員の件ですが、やはり私立の方が確保しやすいのですか。

[福祉部長]

今は処遇改善の補助がありますので、段々と公立より、民間の方が高くなると思います。

[司会]

ほかにございますでしょうか。

[上原市長]

認定こども園が、どのあたりに整備される予定なのか教えてください。

[児童家庭課長]

現在、整備中のところとしては、サムシングフォー西崎のとなりに来年4月開園に向けて建設中です。それから兼城ハイツから兼城小学校に向かうところに整備を予定しています。すでに高嶺地区では、ちくば保育園が認定こども園に移行していますし、字糸満のこひつじ保育所が移転して、今年度は保育園で、来年4月からは増員して認定こども園に移行する予定です。

そして、これまで私立幼稚園で運営してきた津山幼稚園も来年4月から認定こども園になるため準備を進めています。

[市長]

順調いけば、4園増えるということですね。結果的に公立と私立が同じぐらいなるということですか。

[久保田委員]

そのままいけば民間が増えていきますね。

[福祉部長]

今は、民間が力をつけてきています。ただし、子どもたちに同じ教育を行うということに関しては、みなさん同時スタートなので、そのあたりの研修はとても大切だと思います。そういうことで研修には力を入れていきたいです。

[久保田委員]

いろいろ説明を聞きましたが、スタートが先になっています。研修などが後になっているので、そのあたりを急いで行ってほしい。

あと、平成30年までに認定こども園にするということですが、米須は遅れている理由は为什么呢か。

[福祉部長]

小学校の改築に合わせてという考えです。

[総務部長]

米須幼稚園ですが、一教室を転用して利用しています。民設民営を考えていて、平成31年度に予定しています。民間が場所をどこにするのかがまだ決まっていません。

[上原市長]

周辺地は空いている土地はあるかと思うので、可能だと思うが・・・。早めに進めていけたらと思いま

す。

[久保田委員]

米須小学校内ということではないのですね。小学校内での民説民営はどうかのかなと思いましたが、周辺にということであれば理解できます。

[吉川委員]

研修についてですが、認定こども園の開園が先になって、職員の研修がなかなか追いついていかないということでした。これまでの研修は「教科書を読む」みたいなものだったと思います。今はインターネット時代であり、最先端の取り組みなどの情報が常にアップされているので、学ぼうという意志さえあれば、本当に最先端の取り組みを参考にできると思います。

だから予算や人の確保などの周辺環境が整うまでを待つのではなく、ネットではいろいろ情報入手できるので、できるものは始めておく方が良いのではないかと思います。研修がまだです、人の配置がまだですでは進まないのではないのでしょうか。そのあたり始められない理由としてはどうかのかなと感じます。

[指導部長]

今の指摘については、その通りだと思います。何もやっていないというわけではなく、現在、連携事業担当が小学校と幼稚園、それに民間も含めて研修などを行っています。

例えば、幼稚園、保育所でアプローチカリキュラムとして、小学校に行って困らないように11月から翌年3月までカリキュラムを作成し、取り組んでいます。また、全ての小学校では、スタートカリキュラムを作成するための研修会を行いました。このスタートカリキュラムは本年度中に作成することになりました。このような研修も進めています。

[吉川委員]

あと、トップダウンだけではなく、認定こども園で働いている人たちが「自分たちもいろいろ学ばなくては」というものがあるかと思います。それを吸い上げてプログラムに入れていただければと思います。

[指導部長]

わかりました。

[久保田委員]

何度か喜屋武の認定こども園を訪ねていますが、みなさん一生懸命やっています。保育担当と幼稚園担当が連携してやっています。そのあたりはとても気になっていました。また、そこへ研修などの受けることにより、さらに新しいことできると思いました。

[児童家庭課長]

この件についての補足ですが、確かに研修は行っています。ただし、たくさんの研修に手が出せない理由がありまして、研修に送り出す体制が整っていないということでもあります。つまり、保育士の確保も困難な状況で保育を続けていますので、事務の多忙により研修が受けにくいという実情もあります。

[神村委員]

福祉部長に質問ですが、喜屋武こども園についてですが、教師の指導力に関する事で課題があるとお話していましたが、もう少し詳しく教えてください。

[福祉部長]

喜屋武こども園については、すでにスタートしています。しかし、認定子ども園に関する職員研修がしっかりできていないという意味です。

[神村委員]

わかりました。さっきの児童家庭課長の補足説明で、しっかり把握して、研修に取り組んでいくということは感じました。先ほどは指導部長から幼児教育の大切さをものすごく語っていました。教育は待ったが聞かないですね。事務的な課題はあるのですが、時間がかかると、きちんとした教育や保育が受けられないで1年間を過ごしてしまう可能性があります。

そのため本当に必要な、今すぐ行うべきものの体制を整えていくべきではないでしょうか。そういうことでいえば、教育委員会から提案である新たな課の設置などを早急に行ってほしいと思います。そうすれば保育や教育をひとつにまとめることができ、問題、課題にしっかり対応できると思います。やはり、学校教育も忙しく、保育の関係課も忙しいので、まとめあげる課を設置してほしいです。今まで無かったものを認定こども園を設置して、その殻を破っていくわけですから、今までの人員では難しいと思います。課題に真摯に向き合うために早めの窓口の一本化をお願いします。

[福祉部長]

研修を受けるための人員を配置するための予算はあるのですが、なかなか短時間で専門職を配置するのが難しい部分があります。ずっと保育士や教育の募集をしていますが、なかなか人が来ない状況です。

[神村委員]

わかりました。

[上原市長]

窓口の一元化についてはどうですか。

[司会]

機構改革については、総務課が担当ではありますが、私の方も昨年度は総務課にいましたので知り得る範囲報告します。昨年度の機構改革の中で、窓口の一元化については、その方向に向けて部長級会議で承認をいただき、進めています。ただし、平成30年度以降に行うとしていました。しかし、幼保の連携が進んでいますので、前倒しが必要なのかどうかについては総務部の方で検討していくと思います。

[安谷屋委員]

できましたら早めに進めて狙いたいと思います。

[事務局]

今年度、総合教育会議の事務局でもある企画開発部は、機構改革担当である総務課に認定こども園の件を説明し、新たな課の設置を要望しました。

やはり福祉部や教育委員会だけでなく、企画開発部としてもバックアップが必要ではないかと考えて提出した次第です。

[上原市長]

この件に関しては、機構改革もですが、教育委員会との業務の分け方も踏まえ、しっかり検討してください。

[久保田委員]

困ったことがあれば、教育委員会にすぐ相談していただければいいと思います。

[神村委員]

こうなったらいいなということで意見を述べたいと思います。教育委員会議の中で指導部長が、就学前教育に力を入れると経済的収益率が高いという話がありました。指導部長の並々ならぬ想いと、もしかすると明日の糸満市が素晴らしいものになるかもしれないと思いました。

今までの幼児教育のスタイルから認定こども園という変わり、今まででは無かったような課題が山積し、それを一つ一つクリアしていく中で幼児教育の先進地として、とても素晴らしいものになるのではないかと思います。

それと周りの自治体に合わせるのではなく、糸満市は「こうしていくんだ」という糸満市のカラーを作ってほしいと思います。

[上原市長]

10月に保育園の代表の方々とお会いする機会があります。逆に私の方からも保育所の代表者の皆さんに認定こども園がスタートしているので、そのあたりも念頭に入れてほしいとお願いしてみたいと思います。

保育園の皆さんも教育には関心が高いと思います。

[吉川委員]

幼児教育が糸満市だけではなく、沖縄県全体が熱心にならないといけないのかなと思います。そうしないと本当の意味での成果につながらない。糸満市が幼児教育で、一步、半歩でも先になっているのであれば、周りの市町村も引き込み、リーダーシップを取れるようになってほしい。せっかく半歩進んだのに、気が付いたら周りに二歩、三歩進まれていたということが無いようにしてほしいです。

そういう意味でも、自分たちだけが良ければいいということではなく、周りを常に引き込むような幼児教育にしていくことが重要できないでしょうか。

[久保田委員]

教育は財政では測れないといいます。幼児教育は沖縄県の方でも、これまで糸満市を高く評価しています。これをさらに認定こども園の中でより充実した教育が行えるようになれば、「糸満市ここにあり」というようなことで、さらに評価されるのではないのでしょうか。そのあたりを期待しています。

[神村委員]

「やらなきゃいけないからやる」ということではなく、前向きにやっていってほしいと思います。また、私はそう感じました。

[糸満市長]

本市的には、現況まだまだ不十分だと思います。市内に結構保育園がありますし、また、関心がある方もいると思いますので認定こども園を検討していただきたいと思います。私は、まだまだ民間の認定こども園が必要だと思います。

[久保田委員]

そうですね。まだ必要だと思います。

[糸満市長]

民間の良さはあると思っています。やはり園自体が、自信と責任を持って、テレビでもよく紹介されているような特色ある教育を行っていただきたい。逆に公立の方では、いくぶん縛られる部分があります。私立については責任を持って自分たちで行いますので、その方がよいところもあるのではないかと考えています。もちろん一概に私立がいいとは言いません。

[司会]

他にご意見等がありますでしょうか。

[委員]

(特になし)

[上原市長]

この方針案につきましては、本日、委員のみなさんから了承をいただいて、部長級の会議を経て、決定していきたいと思いますが、いかがでしょうか。後、事務局は今後のスケジュールをお願いします。

[事務局]

部長級会議は10月初旬になります。その後市長の決定を経て、公表となります。

[上原市長]

決定した後、公募の関係上、早めに広報しないといけません。それを行わないと平成30年度に間に合わない可能性があります。もし了承をいただけたら早急に取り組みたいと思います。

[司会]

ほかにご意見等はございますでしょうか。

特にご意見が無いようですので、これで協議を終えたいと思います。

それでは、認定こども園につきましては、本案のとおりでよろしいでしょうか。

[委員]

(了承)

[司会]

ありがとうございます。

それでは、本案のとおり決定し、進めさせていただきます。

[司会]

それでは、以上をもちまして、糸満市総合教育会議を閉会させていただきます。

委員の皆様、本日はありがとうございました。